

JSTベンチャーミーティング 楽市楽座

科学技術振興機構(JST)の支援による研究開発成果を基に設立されたベンチャー企業が、その魅力的な技術・製品・サービスとビジネスプランについて発表し、資金調達先を募ります。

2012年3月21日(水) 13:30~16:45

JST東京本部別館2階セミナー室(東京・市ヶ谷)

主催 独立行政法人科学技術振興機構
 後援 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会
 独立行政法人中小企業基盤整備機構
 協力 株式会社産業革新機構
 株式会社日本政策金融公庫

会場のご案内

(お問い合わせ先)

【会場】
 〒102-0076
 東京都千代田区五番町7 K's五番町
 JST東京本部別館2階セミナー室

- JR「市ヶ谷駅」より徒歩3分
- 都営新宿線、東京メトロ南北線・有楽町線「市ヶ谷駅」(2番口)より徒歩3分

(お問い合わせ先)
 独立行政法人科学技術振興機構
 産学連携展開部 事業推進担当
 TEL 03-5214-0016
 FAX 03-5214-0017

参加申込書 JSTベンチャーミーティング 楽市楽座 2012年3月21日(水)

今回のJSTベンチャーミーティング楽市楽座はVC等金融機関の方以外参加申し込みできません。

FAXでお申し込みの方はhttp://www.jst.go.jp/tt/event_20120321_entry.pdfから申込書を入手できます。 E-mailでお申し込みの方はhttp://www.jst.go.jp/tt/event_20120321_entry.xlsから申込書を入手できます。それぞれ必要項目をご記入の上、下記宛ご送信下さい。

(お申し込み先) **JST 産学連携展開部 事業推進担当** FAX : 03-5214-0017 E-mail : uventure@jst.go.jp

ふりがな		所在地 (勤務先)	〒
会社名 (正式名称)			
ふりがな		所属 役職	
氏名			
電話		FAX	
E-mailアドレス			

プレゼンテーション・個別面談の希望
 プレゼンテーションの参加希望は下記参加希望表の口に✓を、個別面談希望は()内に第1希望から順に1~6の数字をご記入下さい。
 ※個別面談は事務局にてスケジュール調整をさせていただきます。お申し込み状況により、ご希望に添えない場合もありますので予めご了承下さい。
 ※個別面談をご希望の方は、当日「秘密保持に関する確認書」にご署名を頂きますので予めご了承下さい。

お知らせいただいた住所やメールアドレスへ主催者から各種ご案内(JSTベンチャーミーティング 楽市楽座、各種報告会等イベント情報、公募情報等)をお送りすることがあります。ご希望されない場合は、下記口に✓をご記入下さい。

ダイレクトメールによる案内を希望しない
 E-mailによる案内を希望しない

参加希望表

	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
① 株式会社マイクロエミッション		□	a ()	b ()	c ()	d ()	e ()	f ()
② 株式会社Proteomedix Frontiers		a ()	□	b ()	c ()	d ()	e ()	f ()
③ 株式会社Transition State Technology		a ()	b ()	c ()	□	d ()	e ()	f ()
④ 株式会社アグリライト研究所		a ()	b ()	c ()	d ()	e ()	□	f ()

ホールにて名刺交換
 ホールにてプレゼンテーション
 別室にて個別面談(1組20分程度、要事前予約)

プログラム

- 13:00~ 受付開始
- 13:30~13:35 主催者挨拶 独立行政法人科学技術振興機構 理事 小原 満穂
- 13:35~13:45 A-STEP 事業紹介 独立行政法人科学技術振興機構 産学連携展開部
- 【ベンチャー企業プレゼンテーション】
- 13:45~14:15 **独自の液体電極プラズマを用いた発光分析技術で世界に安心・安全を提供**
株式会社マイクロエミッション 代表取締役 山本 保
(シーズ創出大学・研究者:北陸先端科学技術大学院大学 高村 禪 教授)
(発表者との名刺交換)
- 14:25~14:55 **タンパク質の定量法開発に特化し、タンパク質を扱う全てのライフサイエンス領域をターゲットに**
株式会社Proteomedix Frontiers 代表取締役 堀江 透
(シーズ創出大学・研究者:東北大学 寺崎 哲也 教授)
(発表者との名刺交換)
- 15:05~15:35 **CASS(Computer Aided Synthesis)技術により、革新的新薬・最適合成法を素早く導く**
株式会社Transition State Technology 代表取締役 山口 徹
(シーズ創出大学・研究者:山口大学 堀 憲次 教授)
(発表者との名刺交換)
- 15:45~16:15 **「植物と光の関係性」を解き明かし、農業に光を当てる技術開発を行う**
株式会社アグリライト研究所 代表取締役 園山 芳充
(シーズ創出大学・研究者:山口大学 山本 晴彦 教授)
(発表者との名刺交換)
- 16:25 閉会挨拶
- 以後 16:45まで個別マッチング

次回の「JSTベンチャーミーティング 楽市楽座」は、技術提携先、業務提携先、販売先等を広く募る予定です。

楽市楽座とは「戦国時代から近世初期に、戦国大名が城下町を繁栄させるためにとった商業政策。それまでの座商人の特権廃止や市場税の廃止、また、座そのものの廃止によって、新興商人の自由営業を許したもの」(デジタル大辞泉)です。現在のオープンイノベーションの流れの中、イノベーターが新技術を持ったベンチャー企業が活力を持つことで経済を繁栄させていこうという思いからネーミングしたものです。

事前申込制

参加費無料

1. 独自の液体電極プラズマを用いた発光分析技術で世界に安心・安全を提供

13:45~14:15

株式会社マイクロエミッション 代表取締役 **山本 保**
 平成18年8月設立 資本金 2,000万円
 所在地: 石川県能美市旭台2-13 いしかわクリエイトラボ

■開発技術の概要

瓢箪のように中央にくびれを持つ小型容器に入れた導電性液体の両端に高電圧をかけると、電気抵抗による発熱で中央のくびれ部分が瞬時に高温となることで泡が発生し、その泡の中にプラズマが生じ、液体に含まれる原子特有の波長の光が観測できる。この発光原理を利用し、小型で操作・保守が簡単な「いつでも、どこでも、誰でも」分析できる画期的な元素分析器を開発した。

■製品・サービスの特徴

独自の液体電極プラズマ(主要国にて特許取得済)の採用により、プラズマ発光分析の使いやすさと信頼性を204mm×105mm×114mm、1.4kgというコンパクトなサイズで実現。元素及び試料に依存し測定できない元素もあるが、50ppb~100ppmの検出限界でバッテリー駆動が可能のためオンサイトで分析できる。現在、自動・連続分析が可能なインラインモニタータイプの製品を開発中。

■対象市場

製造工程管理や排水検査など製造業界、レアメタルや有害成分の確認など産業廃棄物業界、飲料中のミネラル分測定や食材の安全性確認など食品業界、土壌や水質中の重金属検査など環境分野、血液検査や尿検査など医療分野など幅広い業界・分野が市場となると考えている。

■事業の概要

自社ブランド品として、製造工程での品質管理や、土壌/水質検査といった環境関連などを中心に販路開拓を行う。従来技術で必要だった特殊ガスや大電力も必要とせずオンサイトで即時に分析できるので、インフラの不十分な新興国から環境意識の高い先進国まで各国で需要の開拓を目指す。

共同開発品として、実験室向け分析機器や、医療応用など、大手企業によるハイエンド製品の開発も進んでおり、基本特許の応用を普及させ、相乗効果を狙っている。

■必要とする資金の使途と規模

- (1)最新研究に基づくハンディ元素分析器の改良及び海外販路立ち上げ資金として2000万円程度
- (2)インラインモニターの商品化資金として3000万円程度

2. タンパク質の定量法開発に特化し、タンパク質を扱う全てのライフサイエンス領域をターゲットに

14:25~14:55

株式会社Proteomedix Frontiers 代表取締役 **堀江 透**
 平成22年3月設立 資本金 1,000万円
 所在地: 宮城県仙台市泉区明石南二丁目1番地の5

■開発技術の概要

質量分析装置で強いシグナルを出すペプチドをアミノ酸配列に基づいてタンパク質のトリプシン消化産物から選択する手法を開発した。三連四重極型質量分析装置のSRM(MRM)Modeを活用することでノイズピークを大幅に削減し、従来、困難であった多種類のタンパク質の高感度同時絶対定量を実現した。

■製品・サービスの特徴

薬物輸送担体、代謝酵素などの薬物動態関連タンパク質を定量するReady Made型キットを販売している。さらに、バイオマーカーや受容体、チャネル、酵素など新薬標的タンパク質について0.1~10fmol/assayの定量感度を目標として、定量法をOn Demandで1~2ヶ月間で受託開発する。

■対象市場

タンパク質を扱う全てのライフサイエンス領域をターゲット市場としてとらえている。新薬探索・前臨床試験・臨床試験研究領域だけでなく、疾患診断薬の領域へ応用可能。従来の抗体法に比べ特異性と信頼性が飛躍的に高く、手術組織や血漿などのマーカーを同時定量することで個別医療の新規市場が開拓できる。

■事業の概要

「タンパク質の定量法開発」に特化した研究開発型企業。開発した技術を全世界に普及させることを目指し、日本国内企業はもとより北米や欧州企業を含めたグローバルなビジネス展開を基本とし、タンパク質定量技術を活用した共同研究や業務提携を通じて、新規市場の開拓を目指している。

■必要とする資金の使途と規模

早期診断のニーズの高い腫瘍等疾患診断領域への対応に関する開発資金として10億円程度。

3. CASS(Computer Aided Synthesis)技術により、革新的新薬・最適合成法を素早く導く

15:05~15:35

株式会社Transition State Technology 代表取締役 **山口 徹**
 平成21年6月設立 資本金 550万円
 所在地: 山口県宇部市常盤台二丁目16番1号 山口大学工学部ビジネスインキュベーション棟206

■開発技術の概要

CASS (Computer Aided Synthesis)技術は、量子化学計算をベースとしたコンピュータ(並列高速計算機)による化学反応解析シミュレーションを行い、特に、遷移状態構造やエネルギーマップなど反応に関する非常に詳細な情報を得るものである。新薬や触媒設計、分子機能性の向上、合成法の改良や最適化、収率向上等が可能で、研究期間・コストの圧縮にも役立つ。また、新薬開発段階におけるリスク評価や信頼性評価にも適用できる。

■製品・サービスの特徴

CASS技術をコアとした「研究受託システム」により、お客様企業のより高度な研究開発と持続可能な開発をサポートしている。また、反応データベースシステムの開発や、CASS技術・計算化学の導入、トレーニングを行っており、大手化学企業・製薬企業にも採用されている。

■対象市場

CASS技術は、医薬品・中間体・ファインケミカル・有機電子材料等、広い範囲の化学物質の設計及び合成に適用可能である。新薬の分子設計(創薬段階)、新薬製造に関する有機触媒設計(製薬段階)、プラントでの合成制御法開発(量産段階)、それぞれに適用した事例があり、創薬~CMC(合成プロセス制御)までの幅広い分野が対象市場となる。

■事業の概要

これまでCASS技術をコアとして、化学反応解析の研究受託解析スキームや独自のコンピュータシステムを自社で構築し、特に製薬段階において、研究テーマ単位でお客様企業へCASS技術の提供を行い、実績を積んで来た。今後はCASS技術の適用範囲を創薬段階にまで広げ、創薬の上流(新薬設計)から下流のCMCまで、一貫してCASS技術を適用することにより、研究期間・コストの圧縮と、開発段階におけるリスク評価と信頼性評価を実現する。これにより、研究面・経営面の双方から製薬企業の課題解決を図る。

■必要とする資金の使途と規模

製薬企業のニーズに特化した機能を付加するための開発資金として1億2000万円程度。

4. 「植物と光の関係性」を解き明かし、農業に光を当てる技術開発を行う

15:45~16:15

株式会社アグリライト研究所 代表取締役 **園山 芳充**
 平成23年12月設立 資本金 300万円
 所在地: 山口県山口市吉田1677番地1 山口大学農学部気付

■開発技術の概要

短日性農作物であるイネは、夏から秋にかけて昼の長さが短くなることで花が咲き(出穂)コメができるが、夜間照明が当たると昼が長いと錯覚して出穂が遅延し、コメの品質や収量が低下する「光害」が起こる。照明の波長や発光条件を適切に制御することで光害を阻止する技術(「光害阻止技術」)を開発した。また、夜間照明のイネへの影響を遺伝子発現解析により効率的に評価する手法も併せて開発し、得られた大量のデータと組み合わせ、光害の程度や範囲を客観的に示す「光害診断システム」を完成させた。

■製品・サービスの特徴

光害診断システムを活用し、既設照明に関する光害診断や照明設置による光害予測を受託するコンサルタント業務、光と植物の関係性についての分析受託業務を展開する。また、光害阻止技術を搭載した照明装置の製造・販売を、照明メーカーとの連携で展開する。

■対象市場

コンサルタント業務は行政や法律事務所などをターゲットに、分析受託業務は大学等研究機関や照明メーカー等に向け展開する。光害阻止技術搭載照明装置は、安全安心上のニーズがありながら光害懸念のため照明設置が進まなかった農地隣接エリアの照明設置者(行政、商業施設など)に対して販売していく。

■事業の概要

当初は、コンサルタント業務と分析受託業務を中心に展開する。光害阻止技術の適用範囲(対象作物: イネ・ホウレンソウ、照明用途: 防犯灯)を拡大し、他の農作物や更に高照度が求められる道路照明に対応する技術開発を行いながら、適用市場を広げる。さらに将来的には、生産性向上や栄養価の制御など、光が植物へ与えるプラス側効果技術も積極的に活用する植物工場用照明装置なども扱い、「植物と光の関係性」を追求・操る事業体を目指す。

■必要とする資金の使途と規模

他農作物への適用拡大、高照度道路照明、植物工場用照明の開発費用として2000万円程度。